平成26年度単位クラブ意識調査の概要

（一財）長野県老人クラブ連合会

高齢者の意識が多様化する中で、如何に楽しい・魅力ある活動を展開していくかが、老人クラブ活動の活性化に欠くことの出来ない喫緊の課題となっていることから単位老人クラブへのアンケート調査を実施しました。

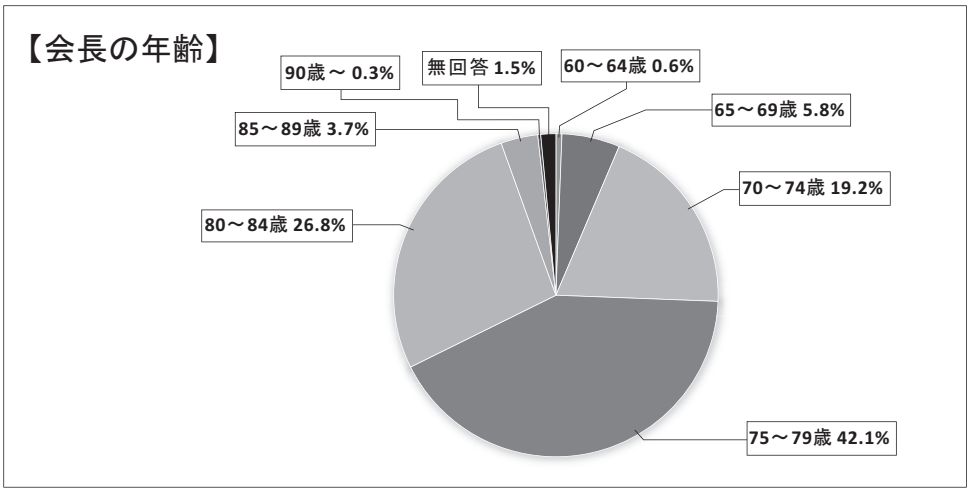
・調査時期　平成26年９月～10月
・調査対象　61市町村老連の全単位老人クラブ数　1,550
・回 収 数　61市町村老連の単位老人クラブ数　940　（回収率60.6%）

調査結果

１　老人クラブの加入年齢、会員構成、地域環境について

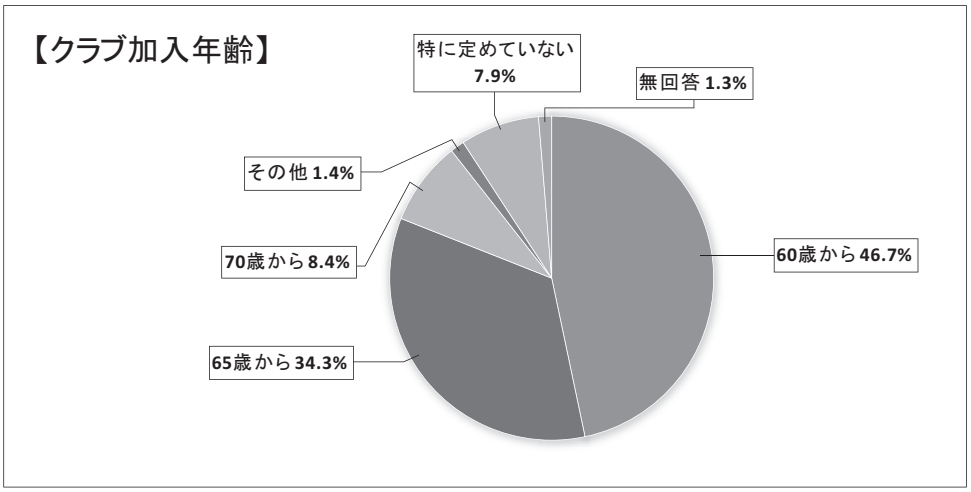
１）【会長の年齢】　75歳から79歳までが最も多くなっている

「75歳～79歳」までが全体の42.1%と最も多く、次いで「80歳～84歳」の26.8%、「70歳～74歳」が19.2%となっています。



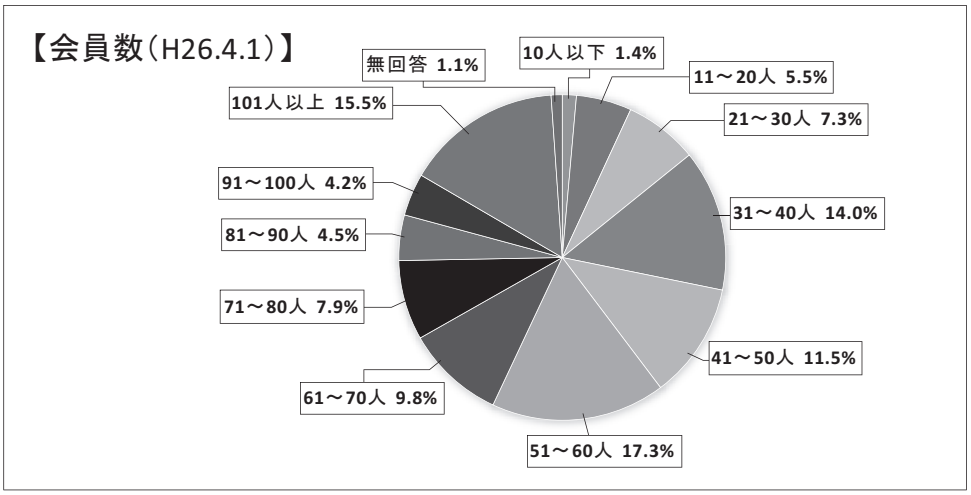
2）【クラブの加入年齢】 60歳からが全体の４割

「60歳から」が46.7%と最も多く、次いで「65歳から」が34.3%、と合わせて全体の８割以上を占めています。



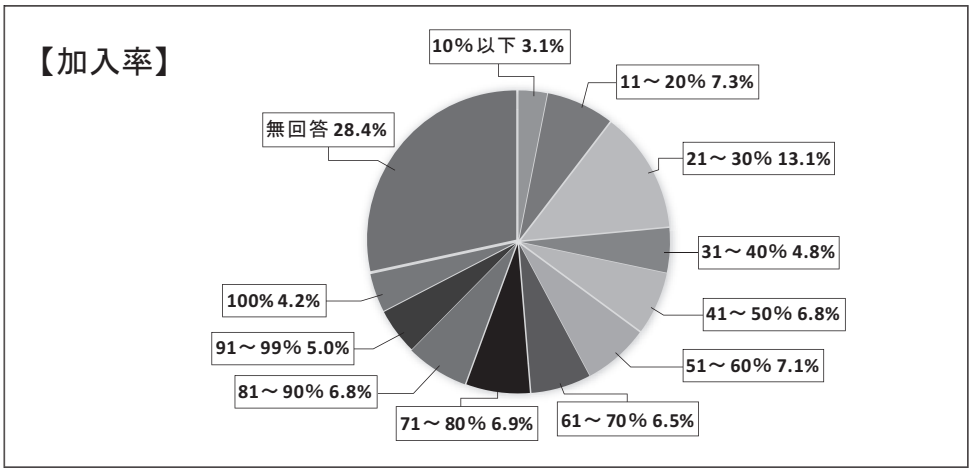
3）【クラブの会員数】 51人～60人が最も多くなっている

「51人～60人」が17.3%と最も多く、次いで「101人以上」が15.5%、「31人～40人」が14.0%、「41人～50人」が11.5%となっています。



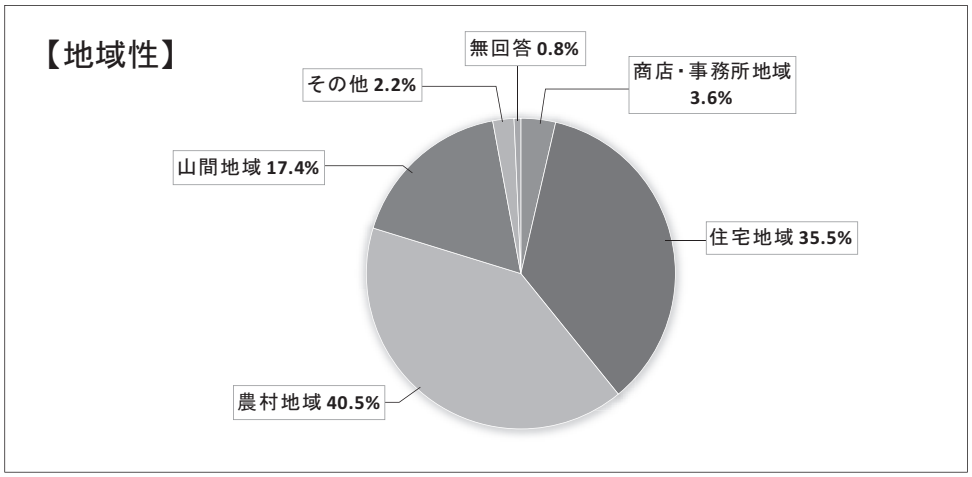
4）【クラブの加入率】 21～30%が１割

「無回答」が28.4%と最も多く、把握しづらいためと思われる。次いで「21～30%」が13.1%。「11～20%」が7.3%、「51～60%」が7.1%となっています。



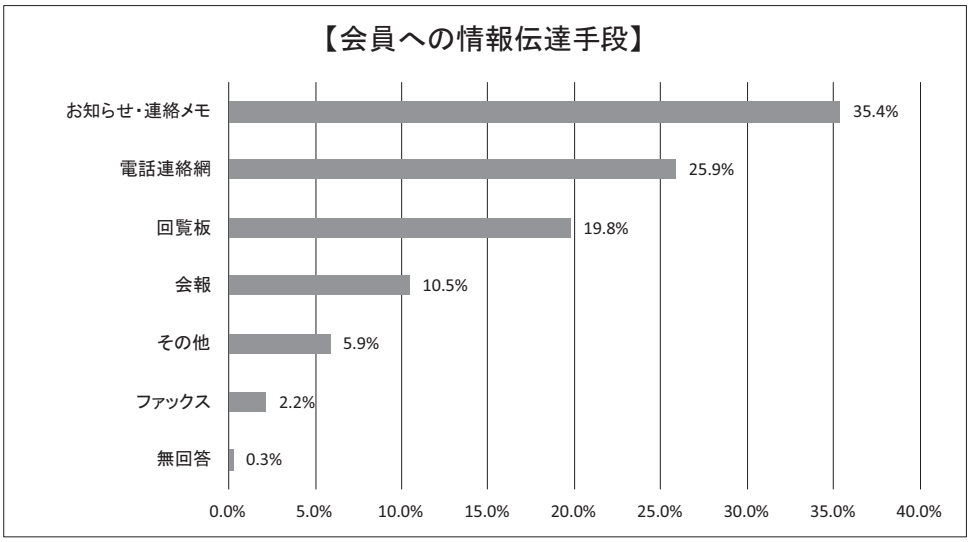
5）【クラブの地域性】 農村地域が一番多く４割

「農村地域」が40.5%と最も多く、次いで「住宅地域」が35.5%、「山間地域」が17.4%となっています。



2　【会員への情報伝達手段】　お知らせ・連絡メモが一番多く３割強

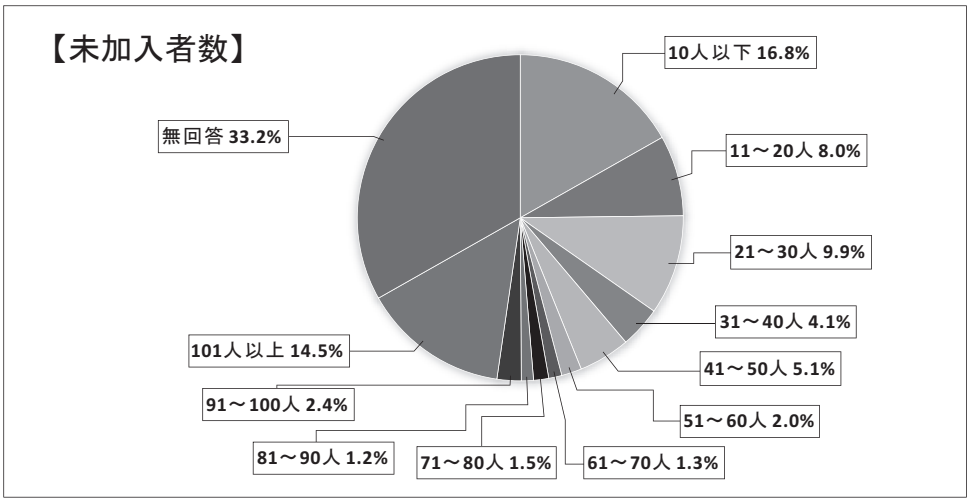
「お知らせ・連絡メモ」が35.4%と最も多く、次いで「電話連絡網」の25.9%、「回覧板」19.8%、この３つを主に情報伝達の手段としています。



3　未加入者への勧誘方法

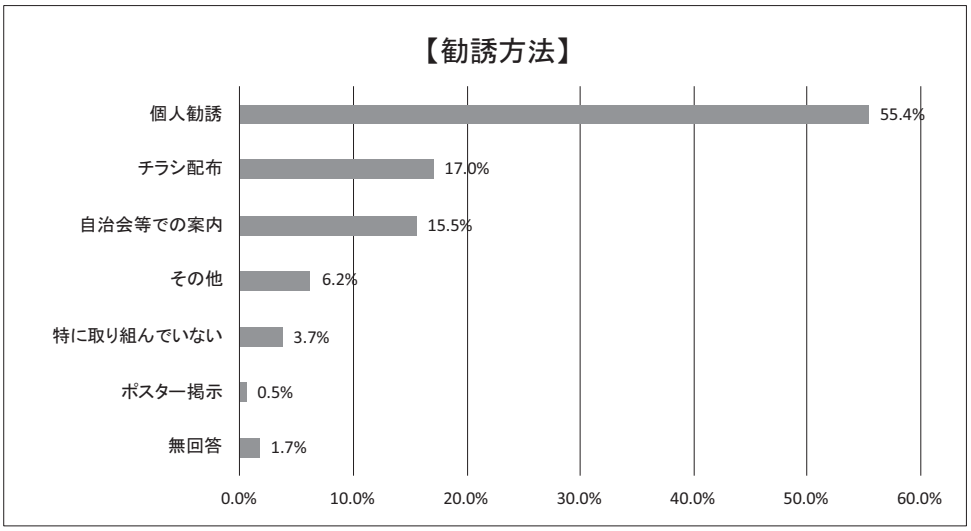
1）【未加入者数】　～10人が２割弱

「無回答」が33.2%と最も多く、把握しづらいためと思われる。次いで「～10人」が16.8%、「101人～」が14.5%、「21人～30人」が9.9%となっています。



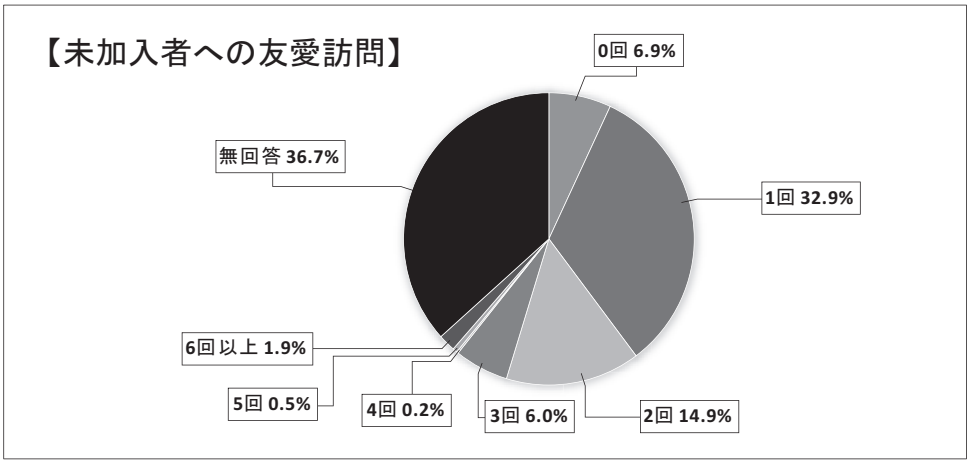
2）【勧誘方法】　個人勧誘が一番多く５割強

「個人勧誘」が55.4%と最も多く、次いで「チラシ配布」が17.0%、「自治会等での案内」が15.5%となっています。



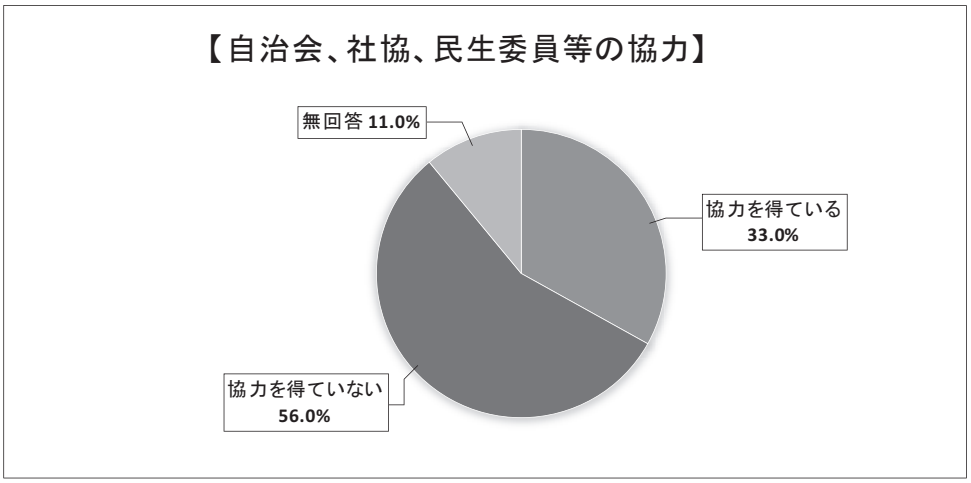
3）【未加入者への友愛訪問活動回数】　１回が３割

「無回答」が36.7%と最も多く、次いで「１回」が32.9%、「２回」が14.9%となっています。



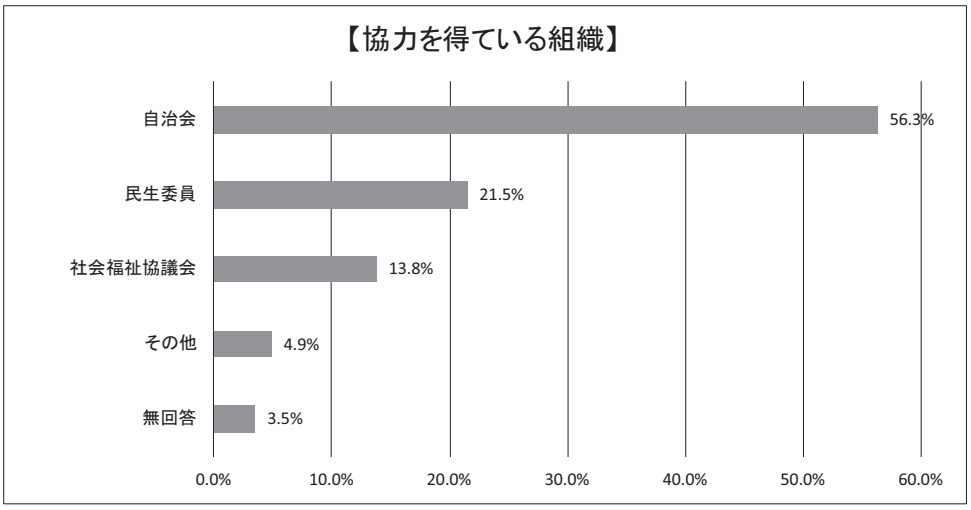
4）【加入促進に取り組む際自治会、社協、民生委員等に協力を得ているか】
協力を得ているが３割強

「協力を得ていない」が56.0%で、「協力を得ている」の33.0%を上回っています。



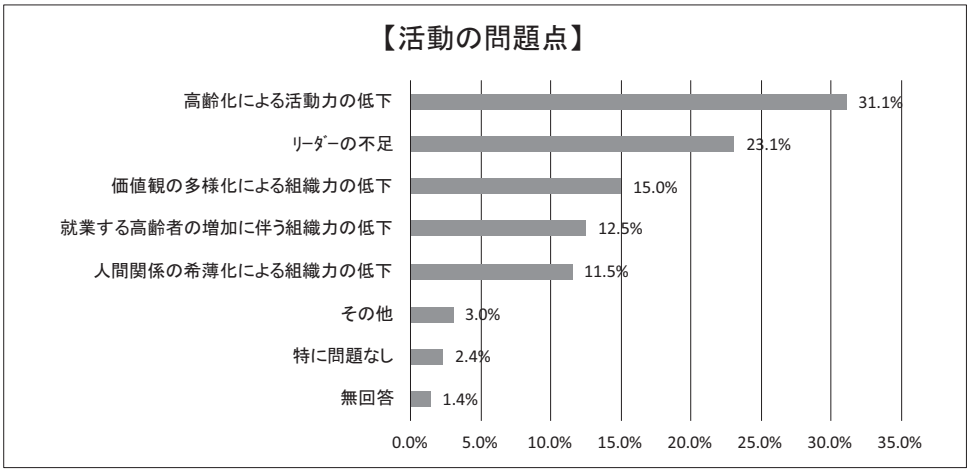
5）【協力を得ている組織】　自治会が５割

「自治会」が56.3%と最も多く、次いで「民生委員」が21.5%、「社会福祉協議会」が13.8%となっています。



4　【クラブでの活動において問題点】　高齢化による活動力の低下が３割

「高齢化による活動力の低下」が31.1%と最も多く、次いで「リーダーの不足」が23.1%、「価値観の多様化による組織力の低下」が15.0%、「就業する高齢者の増加に伴う組織力の低下」が12.5%、「人間関係の希薄化による組織力の低下」が11.5%となっています。



5　【クラブ活動の取組に何が必要か】（主な意見）

●会員の要望を聞いた計画。　●自治会の協力。
●会員の親睦を深める事業。　●単位老人クラブ独自の事業。
●会長はじめ役員が活動すること。　●活動資金の確保。
●スポーツ・文化を通し、趣味の共有での仲間づくり。
●行動力のあるリーダー。　●地域内のコミニュケーション。
●老人クラブの存在が地域に認められること。
●自治会の役員終了後入会していただくようなシステム。
●女性会員の希望を取り入れる。　●役員が一生懸命取り組む姿を見ていただく。
●活動の拠点となる場が欲しい。
●会員は勿論、地域住民からも喜ばれる活動。
●共通の目的意識をどのようにして醸成するか。
●事業が多いと次期役員選出にも影響する。適度の活動が望ましい。

6　【活動をして良かった事例】（主な意見）

●自治会等の協力で新規加入者が多くなった。
●地域内の神社、ＪＲ無人駅、名所等の清掃。
●地域の花壇づくり、草取り。　●伝統行事等を伝承する協力。
●会員の研修、親睦旅行。
●未加入者を集めて懇談会を開催し、勧誘を行った。
●社会奉仕活動や世代間交流活動を地道に行った結果、活動を見て積極的に入会してくれた。
●折に触れ、会の主旨、活動をお話し、加入を勧めた。

●催物の後「あゝ良かったね」と言われること、「次も来るよ」と言ってくれたこと。
●他地域の活動を見学させ刺激を受けさせる。
●スポーツにより会員が増えたこと。
●自治体の各団体との共同活動、趣味、文化等を中心にした組織づくりにした。
●個人で出来ない行事等クラブで計画することにより参加ができるようになる。
●新加入促進機関を設け、積極的に行動した。会員増に繋がった。
●サークルを新設した。これに伴い新規会員を獲得できた。
●子どもの安全を守るパトロールへ積極的に参加。
●隣組の絆が薄れないよう声をかけ安否確認を行っている。
●自治会、敬老会等合う都度に勧誘することで、加入の約束を多数得ている。
●年間１人でも根気よく勧誘した結果、入会してくれたこと。
●事業の参加者に会員以外も認め、活動等を理解してもらった。

7　【クラブの課題・問題点】（主な意見）
●役員の責任が重圧で、役員のなり手がない。
●老人クラブの老人の名称がよくない。
●事業に対する自治会等からの補助金、助成金を増やしてほしい。
●高齢化率が高く事業が出来ない。
●入会を勧めても65歳以下はまだ早いという人が多い。
●定年制延長による意識の変化や定年後まで組織に縛られることを嫌う傾向。
●会員増が大きな課題。　●事業のマンネリ化。
●会員数は多くても実際に参加できる元気な方は少なく名簿会員という人も多い。
●年齢差による活動方法等意識の相違。
●会員の高齢化により行事等への交通手段の確保。
●会員資格は60歳以上としているが、実態は70歳以上にならないと入会しない。
●若手会員（60歳代）を如何に入会してもらうか。
●活動する会員の固定化。
●高齢者の就業が増加しているため、加入が難しい。
●加入は自由であるが、行政が主体での取組みができないか。
●会に入会しなくても、行政及び社協の行事・活動の中でも一部類似しているものもあり、価値観の多様化もあり、強力に勧誘できない。
●クラブの行事、会合等は昼間開催に限定されるため、勧誘に限界もある。
●役員の負担軽減。
●「老人クラブ入会のお誘い」「県老連だより」を全地区回覧可能量を希望。
●行政を含めて活動内容・問題点等を率直に出し合って検討を行い時代に合ったクラブづくり。
●仲間づくりや友愛活動のための活動資料（ＤＶＤ、テープ）の提供。
●情報の共有。　●老人クラブ加入のメリット。
●上部組織の指導をお願いしたい。
●シニア大学を卒業しても老人クラブに入会してくれない。